

編集後記

猛暑と大雨が繰り返す夏の休みに高校野球を見ながら、東西の“元祖”グローバル国家である古代ローマと秦に関する本を読んだ。ここでいうグローバル国家とはその国家が世界的なひろがりの規模を有するという意味であり、両国家が当時としてはそれぞれが世界そのものであった。その両国家は違うところが多い。

ローマは開放的であり、住みついて税金を納め、軍役につきさえすれば誰でも市民権を得ることができた。共和政時代では執政官や護民官という国家の最高役職が選挙により決定され、また、他部族や平民出身者であっても一定の条件を満たせば元老院議員にさえなれた。他国家との結びつきもゆるやかな条件での同盟というかたちでなされた。

一方、中国史上最初の統一国家である秦は、皇帝を頂点とする強固な中央集権国家であり、軍事力を背景とした専制政治に終始し、焚書坑儒などの圧政がなされた。

しかし共通的なところもまた多い。ローマでは有名なアッピア街道を始めとした街道が精力的に建設され、「全ての道はローマに通ず」となり、秦では全土に幹線道路が作られた。また、租税や商取引の基準としての度量衡や貨幣の統一がなされたことも両方に共通のことである。グローバル社会ではその世界内では統一的な価値基準が必須なのである。

中国の度量衡は奈良時代にわが国に伝わり、大宝律令で制度化され、江戸時代には、秤・枴・分銅については製造・販売者を指定し、さらに第三者による検定が実施されていた。江戸時代のこの厳密なトレーサビリティの実行が明治維新後の近世日本の経済発展に貢献しているはずである。

本号でも測定に関する論文が多い。世界全体が一つのグローバル経済圏となっている現在、共通のルールと共通の価値基準が前提となってくる。測定する技術の必要性も一層大きくなるのだろう。
(H.S.)

アンリツテクニカル編集委員会

編集委員長 / 大石 迪夫

編集副委員長 / 永井 治男

編集事務局 / 池上 彰

笹尾 紘一

編集委員 / 横原 茂

古屋 伸夫

中野 好典

野村 稔

飯島 靖樹

小林 貞夫

高橋 福幸

石積 清博

小島 利治

栗本 猛男

戸田 博道

篠原 八郎

鷲見 孝則

森 秀夫

アンリツテクニカル

78

1999年9月30日 発行(年2回発行 非売品)

発行人 大石 迪夫

発行所 アンリツ株式会社

〒106-8570 東京都港区南麻布五丁目10番27号

TEL (03) 3446-1111

1999年9月29日 印刷

印刷所 株式会社 文祥堂

〒108-0073 東京都港区三田五丁目3番7号

© アンリツ株式会社 1999 無断転載を禁じます。

問合せ先 アンリツテクニカル編集事務局

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名1800番地

アンリツ株式会社 技術本部共通技術部

TEL (046) 296-6525